ハイキングの想定と指示

今回のインダバのテーマになっている Scouting for Boys という本は、隠れたベストセラーで、全世界で 1 億 5 千万冊売れているようです。これは、聖書、コーラン、毛沢東語録などに次いで多いもので、世界に広がるスカウト運動の規模が分かります。

ところで、ミステリーの分野では、アガサ・クリスティの「そして誰もいなくなった」(米国でのタイトルは Ten Little Indians, And Then There Were None)が、１億冊を売り上げ、ベストセラーのトップです。1939 年に英国で書かれたこの話では、孤島から出られなくなった 10 人が、マザーグースの中に出てくる Ten Little Indians の歌の通りに、次々と殺されていきます。

この場合の Ten Little Indians は、単なる数え歌ではありません。例えば、以下のようなものです。

Ten little Indian boys went out to dine; One choked his little self and then there were nine.

10 人のインディアンの少年が食事に出かけた; 1 人がのどを詰まらせて、9 人になった

Nine little Indian boys sat up very late; One overslept himself and then there were eight.

9 人のインディアンの少年がおそくまで起きていた; 1 人が寝すごして、8 人になった

そして、殺人が行なわれるたびに、インディアンの人形が 1 体ずつなくなっていくという、怖い話なのです。

実は、物語の最後の方に、ボーイスカウトが登場します。島から鏡を使って SOS 信号が発せられて、ボーイスカウトがそれを発見するのです。残念ながら、海が荒れていて助けられなかったのですが、フィクションとは言え、こういった場面にボーイスカウトが出てくるのはうれしいですね。

ボーイスカウトは信号を使い、人を助けるというイメージがあるようです

さて、今回のインダバでも、10 人のインディアンが登場しました。ところが、お気づきのように何人かがどこかへ行ってしまいました。これにより殺人事件はないでしょうが、「そして誰もいなくなった」を真似して、誰かが隠したようです。

隠した犯人からは、皆さんへの挑戦状が届いています。

挑戦状が解読できたら、報告して出発してください。
先発によりサインが残されている場合は、その指示にしたがってコースを取ってください。
ハイキングは、ちかいとおきての実践の場であることを、忘れないように。